



## 大学での教育、研究と紀要の役割

名古屋文理大学・同短期大学部 学長 景山 節

昨年は名古屋文理大学の創立60周年を迎え、教職員一同はその歴史の重さを感じるとともに、今後の学園の発展を誓っています。大学の本分の第一は若い者を育てる「教育」、特に社会に出ていく直前の若者に高度な知識と技術を身に着けさせることにあります。日本は教育立国であり、高等教育は我々が世界の中で生き残っていくために最も力を入れていかななくてはなりません。このような高等教育のかなりのところは、大学でおこなわれる研究によって支えられています。大学のおこなうべきことを表す言葉として「教育と研究」という言い方がありますが、本学も「研究」には力を入れてきました。民間の「食糧科学研究所」を母体として学園が創立されたこともあって、「研究」が教育の土台になるということを教職員はよく認識しています。大学での教育はこれまでの蓄積した知識や技術を教えていくとともに、研究によって得られた最新の知識や技術も若者に授けていかなければなりません。

本学の研究成果は国際誌あるいは和雑誌に発表されるとともに、名古屋文理大学紀要に発表されます。この紀要は英文、和文の混在する様式になっており、本学の主要な研究成果発表の場の一つになります。紀要というのは、大学教育においてどのような役割を果たしているのでしょうか。私は栄養学の授業と実験を担当しています。教える内容を勉強したり、細かな部分を調べたりすることが常に必要になります。これらのことは文献から手に入れるのがほとんどです。文献の内容を理解して授業に組み込んでいくことになりますが、授業内容は幅広いので、文献量は膨大なものになります。教科書の内容のより専門的なところを調べるには、和文の総説が便利です。このときはインターネット検索で調べ紀要が見つかったりします。総説は学会誌などに載ることも多くあります。しかし実際の授業で教えていることの内容や問題点をまとめることは、細かい分野では紀要のほうが適していると思うことがあります。また実験の実例やデータなどはグーグルなどで論文検索をおこなったりして調べていますが、他大学の紀要で発表されたものが多く、そのデータは非常に参考になっています。紀要の発表内容には、他の機関も含めて、必ずしも最先端の新奇性の高いものが多いわけではありません。しかしながら日々の教育には必要性の高いものが多く含まれています。

研究成果を発表するには、紀要のほかに、英文の国際誌、和文の学会誌などがあります。これらの雑誌にはそれぞれの役割があると言えます。英文の国際誌には最先端の新奇研究、和文には手堅い確認研究、紀要には現場に役立つ研究を発表するとなるのでしょうか。しかしながら、雑誌の区別が必ずしも研究の優劣というわけではありません。研究というのは、最先端の研究としても、日々の地道な研究を続けていくうちに、ふとというか突然にひらめくことがもともになっていると思いますので、やりつづけるということが重要でしょう。得られた成果の内容によって、紀要に発表するのか、和雑誌か国際誌かを判断していけばよいと思いますし、紀要の中にひらめきが含まれていることもあります。

本学の紀要は、pdf 公開をおこなっていますので、キーワードを入れればネット検索にかかること

になります。紀要の論文が授業や実験の現場に直接役立つことは、いろいろな分野でも同じことであり、本学の成果も学内だけでなく、全国的に広く利用がなされているのではないかと推測しています。今の時代では、論文を読むには図書館に置かれている現物の雑誌から直接読むよりも、ネットの検索で手に入れたものを読むのが殆どだと思います。理系の分野の欧文論文では米国の pubmed のシステムが広く使われています。いっぽう、和雑誌のほうでは、日本には J-stage のシステムがあつて非常に便利になっています。しかし国内学会誌は殆ど J-stage で検索されますが、国内の大学紀要などはまだわずかししか載っていません。多くの紀要の投稿規定や査読システムが基準を満たさないからでしょう。そのため紀要の文献検索はできないか、あるいはネットでのヤフーやグーグル検索になりますので、この利用の不便さが紀要発表のマイナス面と言えます。本学の紀要は、研究委員会の近年の努力により、投稿規定や査読システムが厳格なものとなりオリジナルな内容を発表するものとして評価を得て、2017年度からは J-stage での掲載が決まりました。今後も名古屋文理大学紀要が本学の教育と研究の基盤を支えるものとして内容が充実していくことと、国内に広く研究成果が知られ利用されることを願っています。